

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします。

SEA IWAKI

いわき経済同友会

三つの目的

- 一つ 元気な会社をつくろう
- 二つ 元気な人財をつくろう
- 三つ 元気な経済圏をつくろう

6月号／2019年6月1日発行

5月20日(月)
19:00～

5月通常例会

会 場
ワシントンホテル椿山荘

演 題 「小名浜港へのクルーズ船誘致の可能性を学ぶ」

講 師 福島県土木部港湾課主幹 木下 秀幸 様・福島県観光交流局観光交流課 加賀谷宏明 様



安島代表幹事挨拶

皆さんこんばんは。いよいよ令和となりまして初めての例会です。今年度もしっかり進めてまいります。

本日は「小名浜港へのクルーズ船誘致の可能性を学ぶ」について学びます。

一番大事なことは、私たち一人一人が必ず目的を達成できるという信念を持って物事に当たることだと思います。

ます。これは仕事上でも同じです。皆様のご協力をお願いいたします。

早いもので昨年の10月にはぱしふいっくびいなす号が、また先月には飛鳥Ⅱが小名浜に入航しました。乗船されている方々に喜んで頂ける町づくりも含めて今日は勉強していきたいと思います。よろしくお願いします。

講演会内容「小名浜港へのクルーズ船誘致の可能性を学ぶ」

「小名浜港へのクルーズ船誘致の可能性について」 福島県土木部港湾課主幹 木下 秀幸 様

小名浜港の現状

小名浜港は東西6.3kmにわたる港であり、東から水産ゾーン・交流拠点ゾーン・物流関連ゾーン・危険物関連ゾーン・緑地レクリエーションゾーンと5つのゾーンで構成されている。

小名浜港の役割

平成30年総取扱量 1,624万 t (エネルギー関連が73%を占める)

○国際物流拠点 観光の拠点 水産業の拠点

◆平成23年国際バルク戦略港湾に選定

◆平成25年特定貨物輸入拠点港湾に指定

→東港地区 国際物流ターミナルの整備



小名浜港長期構想

小名浜港長期構想とは

「長期構想」とは、「公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン（国土交通省H20.4）」に基づき、**20年から30年程先を見通した小名浜港の将来像**を描くものです。

小名浜港長期構想（H28.12策定）

- ・ 20年から30年程先を見通した小名浜港の将来像
- ・ 将来目標、長期的な港湾整備の方向性
- ・ 港湾利用のゾーニング



長期構想のうち短中期的施策を抽出

小名浜港港湾計画（H29.3改訂）

- ・ 10年から15年程先を目標とした空間計画

——— 小名浜港が果たす役割 ———

- ◆ 地域産業やエネルギー供給を支える物流拠点
- ◆ 地域の賑わいや観光振興を支える交流拠点
臨海部における親水空間の形成やクルーズ客船の誘致による交流空間の創出
 - ① 多様な親水空間の創出や海面の利活用
 - ② 既存ふ頭等でのクルーズ客船受入環境の確保、クルーズ客船の誘致に向けた取組みの推進
 - ③ 小名浜港マリーナの復旧・復興
地域社会との協働・連携による観光振興やみなとまちの賑わい創出
- ◆ 災害時に市民生活や企業活動を支える防災拠点

親水空間の形成やクルーズ客船の誘致による交流空間の創出

- 受け入れ環境の確保
- ・ クルーズ客船対応の防舷材や係船柱の設置と旅客ターミナルの検討
- ・ クルーズ客船の利用調整
- ◆ 3号ふ頭地区
- ◆ ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま
イベント船や帆船等の受け入れ

全国のクルーズ情勢

明日の日本を支える観光ビジョン

安部内閣3年間の成果、戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、**大胆な「改革」**を断行。

- ・ 訪日外国人旅行者数は、2倍増の約2,000万人に
- ・ 訪日外国人旅行消費額は、3倍増の約3.5兆人に

——— 新たな目標への挑戦！ ———

訪日外国人旅行者数

2020年：4,000万人 2030年：6,000万人

訪日外国人旅行消費額

2020年：8兆円 2030年：15兆円

地方部での外国人延べ宿泊者数

2020年：2,400万人泊 2030年：1億3,000万人泊

外国人リピーター数

2020年：2,400万人 2030年：3,600万人

日本人国内旅行消費額

2020年：21兆円 2030年：22兆円

クルーズ船受入の更なる拡充「明日の日本を支える観光ビジョン」

◆ 訪日外国人旅行者数の受入人数の目標として2020年に4,000万人（訪日クルーズ旅客は500万人）、2030年に6,000万人、訪日外国人旅行消費額の目標として2020年に8兆円、2030年に15兆円をそれぞれ目指すこととしている。

◆ クルーズ船に関しては、北東アジア海域をカリブ海のような世界的クルーズ市場に成長させ、クルーズ船寄港を活かした地方の創生を図ることとしている。

——— 現状・課題および今後の対応 ———

- 増大するアジアのクルーズ需要を取り込み、クルーズ船の寄港が地域経済に与える効果を拡大することが必要。
- クルーズ船が寄港するための港湾施設や、クルーズ船の寄港に伴い発生する諸課題への対応が不足。
- 寄港地が西日本の一部の港に集中する傾向がある。

クルーズ船の寄港する港湾

○ 2017年にクルーズ船が寄港した港湾の数は、全国で130港。

○ そのうち、大型クルーズ船（10万総トン数以上）が寄港した港湾は28港。

順位	港名	寄港回数
1位	博多港	326回
2位	長崎港	267回
3位	那覇港	224回
4位	横浜港	178回
5位	石垣港	132回
6位	平良港	130回
7位	神戸港	116回
8位	鹿児島港	108回
9位	佐世保港	84回
10位	八代港	66回

訪日外国人旅行者の不便解消の徹底

◆ 観光庁調査などにおいて掲げられている「多言語サービス」、「無料Wi-Fi」、「トイレの洋式化」について、早期に不便を解消。

平成30年東北管内クルーズ船寄港実績→80隻

小名浜港の実績なし

4. 小名浜港のクルーズ船寄港実績と本県の取組状況

小名浜港に寄港した主なクルーズ船

平成22年7月22日 飛鳥Ⅱ

平成28年6月25日 にっぽん丸

平成29年11月17日 ばしふいつくびいなす

平成31年4月16日 飛鳥Ⅱ →一年に一隻程度

本県の取り組み状況

- 平成31年、クルーズ船の寄港と合わせた小名浜マリブリッジの一般開放（3号ふ頭）
- 関係機関と連携した誘致活動
 - ① 平成30年11月 外国船社の小名浜港視察
 - ② 平成30年11月 横浜港クルーズセミナー 2018
 - ③ 平成31年2月 連携協定を締結
- 横浜港との連携協定を締結

講演会内容「小名浜港へのクルーズ船誘致の可能性を学ぶ」

「福島県のインバウンド誘客概要」 福島県観光交流局観光交流課 加賀谷宏明 様

福島県の外国人宿泊者数 推移

外国人延べ宿泊者数（観光庁宿泊統計調査）

⇒2018年は125万人と毎年130%成長を見せている

福島県の外国人宿泊者数（上位3国）

2018年全国 中国・台湾・韓国

福島県 台湾・中国・香港

（中国・韓国は福島県を避ける傾向がある）

⇒各市場別にどう取り組んでいくか？

福島県の月別外国人宿泊者数



国別 来県者の特性

	2018年1~12月		風評 度合	来県者の特性
	県内 (人泊)	全国 (万人泊)		
台湾	34,200	1,146	○	花・自然好き、東北各県チャーターで増
中国	16,830	2,094	×	新潟から会津への観光客増
香港	3,210	594	×	会津エリアに集中
韓国	4,600	1,125	×	尾瀬に集中
タイ	15,080	288	○	花・自然を目当てに観光客増
ベトナム	8,550	55	◎	花・自然好き、チャーターで観光客増
アメリカ	5,830	532	○	サムライ文化に興味関心あり
オーストラリア	3,640	205	○	パウダースノー目当てに観光客増
イギリス	1,030	117	○	サムライ文化・自然に関心あり

【風評度合】◎: 風評なし、○風評はあるが気にしなくてよい、×風評が強く残っている

平成30年度クルーズ事業について

ロングクルーズ・ミドルクルーズの日本寄港、日本発着クルーズの拡大を図るとともに、九州に寄港が集中している。

中国発着のショートクルーズ旅程の延伸による寄港地の分散化を目的に、クルーズ船社の寄港地決定責任者の招請、クルーズ見本市出展を実施する。

日本の魅力発信に向けたクルーズ着地型観光の充実にむけて

- 近年、我が国へのクルーズ船の寄港は増加傾向であり、クルーズ船の寄港は地域経済の活性化のみならず、地域の評価・知名度を向上させ、リピーターを獲得する重要な機会。
- 各寄港地では、様々なオプションルツアーが用意されているが、特定の免税店等のみ立ち寄り寄る場合もあり、地域全体に裨益していないとの指摘もある。
- このため、国、旅行業界、DMO、港湾関係者等が連携し、クルーズ寄港地における着地型観光の充実方策について検討を進める。

◆検討内容

- ①地域経済への活性化をもたらした成功事例のとりまとめ
- ②各港への普及方策の検討
- ③モデル事業

クルーズ着地型観光のモデル事業の実施について

◆モデル事業の背景

受け入れ地域にとっては、地元経済の活性化や魅力・知名度・評価を向上させる重要な機会であるが、地域の機会損失が生じている例も見られる。

◆目的

旅客の満足度向上と地域への経済効果の拡大を図るために、クルーズ旅客の寄港地観光を充実させる。

◆モデル事業の概要

旅客満足度の高い寄港地を優良事例として、成功している要因を抽出し各港へ普及させるためのモデル事業を行う。

懇親会写真



◆誕生月プレゼント

リーガーズベコニアが贈られました



左から、宇佐美修さん(5月27日生)、高原繁美さん(5月19日)、安島代表幹事、里見 潤さん(5月22日)、柴崎恒義さん(5月25日生)、波多野和茂さん(5月19日生)

5月グループ会報告

第1グループ会

■日 時 5月22日(水曜日) 18:30～
■場 所 常磐共同ガス(株) 会議室

経営者研修会 『健康経営について』

講師 フジモリ機工(株) H30年度健康経営優良企業受賞
従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践し、健康の維持増進に取り組むことで、会社の活性化と会社イメージアップ、業績向上を図る取り組みを健康経営という。

昨年度の優良企業を受賞したフジモリ機工の齋藤一成社長を講師にお迎えして、取り組み内容と効果を聞くことができ、大変有意義な機会となった。

第2グループ会

■日 時 5月29日(水曜日)
■場 所 建設会館3階

『いわき市の地域課題×スポーツの効能を考える』

講師 いわき市文化スポーツ室、津田室長

・津田室長の私的意見を交えながら、いわき市の向かう方向性や継続的な交流人口を図る上でスポーツの重要性、スポーツによる地域活性化、その他、自治体も含めて地域連携の重要性の話を頂きました。

・7月担当例会の概要趣旨説明

*終了後、懇親会開催 またもや、講師も含め白熱議論で盛り上がりしました。

第3グループ会

■日 時 5月12日(日曜日)
■場 所 スパリゾートハワイアンズゴルフコース

会員相互交流ゴルフコンペ

スパリゾートハワイアンズゴルフコースで行いました。総勢11名の参加のもと、新入会員の門馬さんも初参加してくれました。天気にも恵まれ、スコアにも恵まれ、大変楽しいコンペとなりました。

優勝は田子英彦さんでした。おめでとうございます。

第4グループ会

■日 時 5月18日(土曜日)
■場 所 山形県米沢市方面

『山形県米沢市方面の文化財を観る』

快晴の天気にも恵まれ、4名にて予定のコースを山崎氏の車両にて出発。

東北中央道に入り米沢・道の駅に立ち寄る。ここは高速道路から無料で乗り降りが可能。駅としての雰囲気も良く、朝どれ野菜など地元の産物がたくさんありました。

赤湯の酒井ワイナリーは、創業1892年(明治25年)東北で最古のワイナリーです。昔ながらの循環型農業(無農薬)でワイン造りをしている会社です。

安久津八幡神社は、置賜地方に唯一の三重塔を要する神社で本殿はかやぶき屋根が印象的。参道の両脇に横たわる大きな棒状の2本の石柱があり「じじば石」と呼ばれています。

大聖寺亀岡文殊菩薩は日本三大文殊の一つで「三人よれば文殊の知恵」と言われるように、昔から“文殊の知恵”と称され、徳一上人(奈良東大寺住持)が東北布教のために訪れた。日本三文殊(1)大和の安倍、(2)丹後の切戸、(3)出羽の亀岡と言われている。

高畠ワイナリーに立ち寄り、ワインの試飲を楽しみ、高畠のお土産を購入する。

米沢市内の「金剛閣」にて、美味しい米沢牛を頂きました。

上杉神社は、山形県米沢市にある旧米沢城の本丸の奥御殿の跡に建てられている神社で、米沢藩祖である上杉謙信公が祀られています。

併せて米沢藩中興の名君である上杉鷹山公を合祀し、山形県社「上杉神社」と称します。伝国の杜 米沢市上杉博物館 特別展「上杉家 葵の姫のものがたり」を見学しました。無事に帰平する。



FMいわき「いわき経済同友会だより」

【7月予定放送】

・7月1日 第1グループ会 下窪 嗣文 様
・7月8日 第1グループ会 松崎 貴弘 様
・7月15日 第1グループ会 山中壮士郎 様
◇毎週月曜日17時45分からです。(約5分間)

・7月22日 第1グループ会 鈴木 俊哉 様
・7月29日 第1グループ会 徳永 淳子 様

※インターネットでも、FMいわきがお聴きできますので、17時45分になったら、下記のことをクリックして下さい。
<http://www.simulradio.jp/>

いわき経済同友会 ご入会のお勧め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
<http://www.seaiwaki.jp>
E-mail: doyukai@triton.ocn.ne.jp

発行 いわき経済同友会 安島 浩代表幹事
編集 情報委員会 委員長 坂本和久
副委員長/鈴木俊哉・松尾幸治・松崎貴弘
四ッ倉隆裕・山中壮士郎